

令和元年度（2019年度）活動記録（No.19）

非核・平和はみんなの願い

【平成31年4月～令和2年3月】



【非核・平和パネル展】折り紙の展示

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市

目 次

非核・平和都市宣言	1
西東京市平和推進に関する条例	2
非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ	3
非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織	4
2019年度の活動を振り返って	5
1年間の活動	8
西東京市平和の日事業	9
非核・平和パネル展	13
広島平和の旅	17
夏休み平和映画会	19
ピースウォーク	21
常設展示	26
資料	27

非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを
世界に広く訴えるために
非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日
西 東 京 市

○西東京市平和推進に関する条例

平成13年1月21日
条例第2号

(目的)

第1条 この条例は、西東京市（以下「市」という。）における平和行政の基本原則並びに平和事業の推進及び平和の日の制定について定め、もって市民の豊かで平和な生活の維持向上に資することを目的とする。

(基本原則)

第2条 市は、世界の恒久平和を願う市民の精神に基づき、平和施策を市民の協力と参加のもとに推進する。

(平和事業の推進)

第3条 市は、次に掲げる事業の推進に努めるものとする。

- (1) 平和の意義の普及及び平和意識の高揚
- (2) 平和に関する情報の収集及び提供
- (3) 平和に関する各種行事の開催及び後援
- (4) 平和に関する他の諸都市との交流
- (5) 前各号のほか、平和施策の推進に関し必要な事業

(平和の日)

第4条 4月12日は、西東京市平和の日とする。

2 市は、西東京市平和の日に、平和の意義を確認し、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施する。

(委任)

第5条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成13年1月21日から施行する。

非核・平和をすすめる西東京市民の会申し合わせ

1 名称

この会の名称を、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」と言います。

2 趣旨

旧田無市は、1984年8月6日、「非核・平和都市宣言」を行いました。

旧保谷市は、1982年10月1日、「憲法擁護・非核都市の宣言」を行いました。

西東京市は、この二つの宣言の趣旨に則り、2002年1月21日「非核・平和都市宣言」を行いました。

この西東京市の宣言の趣旨を、西東京市とともに市民一人ひとりに広め、平和な世界への実現に向け、思想、信条の違いを越えて、世界中の人々と手をつなぎ合い、市民の創意工夫でいろいろな活動を行います。

3 事業、活動の進め方

会の事業、活動は、市民が主体となって、西東京市と提携しながら、市の非核・平和事業予算をもとに進めていきます。

4 世話人

会の趣旨に賛同する市民(在勤、在学者を含む)は、随時世話人となることができます。ただし、個人参加とします。

5 役員

会の代表として、会長1名をおきます。

会長を補佐するために、副会長をおきます。

事業の推進を図るために、事務局長及び若干名の常任世話人をおきます。

常任世話人の中に、広報、庶務などの担当をおくことができます。

6 任期

役員任期は1年とし、再任を妨げないこととします。

7 会議

世話人会は、年2回以上開き、役員を選出し、事業計画、予算計画を決定します。常任世話人会は、事業、活動を推進します。

8 市民集会

全市民を対象にした集会を、年1回以上開きます。

附則 2001年7月7日決定
2003年6月7日一部改正

非核・平和をすすめる西東京市民の会の組織

会 長	鈴木 治夫		
事務局長	藤川 利子		
世 話 人	出原 隆	内田 直之	柏木 由美
	菊池 美千代	岸野 有美子	小林 悟
	小林 力	坂口 光治	笹井 春季
	高橋 良彰	武田 五郎	地引 正雄
	寺本 匡利	都丸 哲也	富岡 いづみ
	中城 達雄	中村 雅実	並木 和子
	林 勉	穂坂 晴子	益留 俊樹
	松村 哲雄	宮崎 進一	村瀬 敬子
	安井 精二	山口 あずさ	山崎 巖
	山本 恵司	山本 みつ子	横山 年三
	渡部 國夫	(五十音順)	

世話人になりませんか

「非核・平和をすすめる西東京市民の会」は、平和を愛する市民の集いです。市民が主体となって発想した企画を、行政と一体になって実施しています。

自分自身の発案したプランが事業活動として実現し、平和に貢献することができます。

西東京市の非核・平和都市宣言の「必要なのは笑顔での話し合い、人類愛と思いやり」をモットーに、更に大きく輪を拡げていきたいと思っております。戦争を知らない世代からの斬新でユニークなアイデアも期待しております。ご希望の方は、協働コミュニティ課までお問い合わせください。

2019年度の活動を振り返って

今年度もいろいろな活動を行ってきました。しかし、「核を無くし、戦争を無くしていこう」という活動は、活動していれば良いという訳ではありません。現実のものとして「核を無くし、戦争を無くしていく」歩みとしていくのが人間としての歩みでもありましょう。

その歩みの一つとして世界中の各自治体での「非核・平和都市宣言」とその活動があります。2017年度の「活動を振り返って」では、「非核・平和都市宣言」の歴史的経過について書きました。2018年度の「活動を振り返って」では、西東京市での非核・平和事業の進め方について簡単に書きました。今年度はこの会「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の運営について書いていきたいと思えます。

この会は「非核・平和都市宣言」の事業を進めるための市民参加の組織として結成されました。このような会の結成の経過について、会の前史ともいえる「田無 非核・平和運動資料集 下巻」第4章 非核自治体運動(発行 非核・平和をすすめる田無市民の会・田無市 1994年8月6日発行 西東京図書館所蔵)に詳細を記録しています。経過の詳細はそちらをお読みください。

世界的に各自治体で「非核・平和都市宣言」が出されるようになったのは1980年代です。米ソ対立の中、核兵器は7万発もが配備されました。一触即発の危機が地球を覆い「核兵器を廃絶し、戦争を無くす」運動の一つとしてイギリスのマンチェスター市から非核自治体運動が始まりました。当時の保谷市では、1982年に「憲法擁護・非核都市宣言」を行い、宣言事業を進めるために市民参加の組織「護憲平和を守る保谷市民の会」が生まれました。また田無市でも1984年に「非核・平和都市宣言」がなされ、事業を進めるための市民参加の組織「非核・平和をすすめる田無市民の会」が結成されました。田無市はまた1995年に「田無市平和推進に関する条例」(注1)を制定し、この中で「平和施策を市民の協力と参加のもとに推進する」と市民参加が条例で定められました。

保谷市も田無市もそれぞれの自治体により事業を進めていきましたが、2000年、田無市と保谷市が合併することに決まった年、保谷市の「護憲平和を守る保谷市民の会」はすでに無くなっており、保谷市の宣言事業は市民参加ではなくなっていました。田無市は、従来通り宣言事業を市民参加で進めており「非核・平和をすすめる田無市民の会」が活動していました。合併に伴い西東京市でも市民参加で宣言事業を進めるようにと「非核・平和をすすめる田無市民の会」と田無市は、田無市地域、及び保谷市地域で西東京市になってからの宣言事業についての進め方について話し合う場を数回ずつ開催しました。その中で「合併しても市

民参加で宣言事業を続けていきたいと思います」と合意し合併後への準備が進められ、2001年1月の合併後に宣言事業を進めるための「準備会」を開催して、同年7月7日に「非核・平和をすすめる西東京市民の会」を結成しました。これは合併と同時に制定された「西東京市平和推進に関する条例」の趣旨にも則ったものです。またこの年の8月に市民の手による「宣言文」を公募し短期間の間に58の作品が寄せられ2002年1月21日に「非核平和都市宣言」を制定しました。

2001年7月に結成された「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の事業の進め方について簡単に振り返っておくと、事業は単年度で考えるのではなく、複数年度で考え実行していかないといけない事、会への参加は団体参加ではなく、個人参加である事の必要性などを昨年の「2018年度の活動を振り返って」に書きました。

運営方法についてよく「会」ですので会員は誰ですか、と問われます。「申し合わせ」には会員の規定はありません。非核・平和の事業は、自治体の予算、即ち税金を使用しています。ですから会員の大枠としてはまずは「市民全員」となりますし、西東京市で働いている方も法人市民税を支払っていますので「市内で働いている方」も会員となります。「会」というと「会員は誰ですか」という問いを受けますが、この会は一般的な会とは異なっていますので、会員という概念は「曖昧」と言えば曖昧です。平和を築いていく事業を進めるための組織ですので、これで良いと思っています。

また「会」は「会則」という決まりを設けるのが通例ですが、この会はそのような決まりは一つもありません。この会は「会員」の範囲も「曖昧」ですので「申し合わせ」としてしています。細かいことを縛るように決めるのではなく、基本的には自発的な活動を基本としているためです。「平和」は、自発的な活動によってはじめて生み出されていくものと考えているからです。

また「世話人」という項を設けています。「世話人」は「申し合わせ」にあるように「会の趣旨に賛同する市民（在勤、在学者を含む）は、随時世話人となることができ」とし、会の「活動」をするかしないかではなく、会の主旨に「賛同」する人が世話人となっています。このように「賛同」すれば「世話人」というのもこの会の特徴でしょう。これは、それぞれ自分の生活もあり忙しく、非核・平和事業に参加したり、活動を手伝ったりはできないけれど、自分のできる平和への活動することはとても大切な事だと考えるからですし、そのようなあり方が「平和」を築いていく基本だと考えるからです。

この「会の趣旨に賛同」する「世話人」の中から、時間の取れる方が「常任世話人」となっていていただき、活動を支えていければと思って活動してきています。その時々、各自の都合に合わせて事業を進めるための活動を支えていければと思います。

2019年の核兵器の数は、ロシア 6,500 個、アメリカ 6,185 個、フランス 300 個、中国 290 個、イギリス 215 個、他にイスラエル、パキスタン、インド、北朝鮮など、合計約 14,000 個余りが世界中に配備されているという。

核兵器がある限り「恐怖の中の生存」という現実が続きます。これは「人間にとって幸せな生活」ではない。

1955年のラッセル・アインシュタイン宣言は次のように訴えています。「私たちの前には、もし私たちがそれを選ぶならば、幸福と知識の絶えまない進歩がある。私たちの争いを忘れることができぬからといって、そのかわりに、私たちは死を選ぶのであろうか？ 私たちは、人類として、人類に向かって訴える——あなたがたの人間性を心に止め、そしてその他のことを忘れよ、と。もしそれができるならば、道は新しい楽園へむかってひらけている。もしできないならば、あなたがたのまえには全面的な死の危険が横たわっている。」と。

西東京市の「宣言」にある「地雷や武器をなくすこと、核兵器をなくすこと、戦争をなくすこと」のためにも、「人間性を心に止める」ことを地道に進めていく必要があります。

(注1 「田無市平和推進に関する条例」の中で「4月12日は田無市平和の日とする」と第4条で定められました。この条例は西東京市となっても田無市を西東京市と変更して条例第2号として継続されました。また条例の制定された1995年は田無駅北口の再開発に伴い1945年4月12日に米軍の爆撃で亡くなった方々を慰霊するために建てられた観音像が移設され、また北口ロータリーの平和のリングも設置されました。)

非核・平和をすすめる西東京市民の会

2019年度 非核・平和をすすめる西東京市民の会 1年間の活動

月 日	内 容	内 容
4月12日 ～14日	西東京市平和の日事業	アスタビル2階センターコートにて記念式典等を開催。13～14日はイベントを実施（P. 9参照）
4月16日	第1回常任世話人会	西東京市平和の日事業のまとめ、「平和事業についての話し合い」についての検討・確認
5月18日	平和事業についての話し合い	「非核・平和をすすめる西東京市民会申し合わせ」に基づいた、全市民を対象とした市民集会
5月21日	第2回常任世話人会	広島平和の旅、非核・平和パネル展についての検討・確認
6月18日	第3回常任世話人会	広島平和の旅、非核・平和パネル展、夏休み平和映画会についての検討・確認
7月16日	第4回常任世話人会	広島平和の旅、非核・平和パネル展、夏休み平和映画会、ピースウォークについての検討・確認
7月25日	広島平和の旅事前学習会	原爆の被害等についての解説および『原爆の記』紹介
8月2日 ～7日	非核・平和パネル展	アスタビル2階センターコートでのパネル展示・イベントの開催（P. 13参照）
8月5日 ～6日	広島平和の旅	参加者5名（報告会を8月23日の「夏休み平和映画会」と同時に開催（P. 19参照）
8月20日	第5回常任世話人会	非核・平和パネル展、広島平和の旅のまとめ、夏休み平和映画会、ピースウォークについての検討・確認
8月23日	夏休み平和映画会	広島平和の旅の報告、映画「男たちの大和／YAMATO」上映（P. 19参照）
9月3日	第6回常任世話人会	夏休み平和映画会のまとめ、ピースウォーク、非核・平和学習会についての検討・確認
9月17日	第7回常任世話人会	ピースウォーク、非核・平和学習会についての検討・確認
10月15日	第8回常任世話人会	ピースウォーク、非核・平和学習会についての検討・確認
11月16日	ピースウォーク	西東京市内の戦争遺跡を訪問（P. 21参照）
11月19日	第9回常任世話人会	ピースウォークまとめ、非核・平和学習会についての検討・確認
12月17日	第10回常任世話人会	非核・平和学習会の詳細確認、次年度事業案の検討
1月21日	第11回常任世話人会	非核・平和学習会の詳細確認、次年度事業案の検討
2月18日	第12回常任世話人会	非核・平和学習会の詳細確認、次年度事業案の検討
3月14日	非核・平和学習会	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止
3月17日	第13回常任世話人会	次年度事業案の検討、西東京市平和の日事業の確認

西東京市平和の日事業

日にち	4月12日(金)～14日(日)
場所	アスタビル2階センターコート
内容	記念式典、西東京市戦災パネル・1トン爆弾模型の展示、イベント、 「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」の上映
参加者	407人

西東京市は、平成13年1月21日の誕生と同時に「西東京市平和推進に関する条例」を制定し、4月12日を「西東京市平和の日」と定めています。

西東京市周辺では、昭和19年11月から翌年8月までに、十数回に及ぶ空襲の被害を受けました。それは当時、近隣市である武蔵野市に、アメリカ空軍の攻撃目標となった巨大な軍需工場「中島飛行機武蔵製作所」があり、その工場を狙った流れ弾によるものです。なかでも、昭和20年4月12日、アメリカ空軍のB29爆撃機が投下した多数の1トン爆弾によって、西東京市内でも100名以上の犠牲者が出ました。特に被害が大きかった田無駅北口周辺では、50数名の方々が防空壕などで死亡し、多くの家屋が全壊しました。

そこで、戦争の悲劇を忘れないために、西東京市は毎年4月12日を中心に様々な行事を実施し、平和の意義の確認や、平和意識の高揚を図る取組みを行っています。

アスタビルでの開催は、今年で24回目になります。

「西東京市戦災パネル」等の展示

4月12日(金)～14日(日)

午前10時～午後9時(14日(日)は午後4時まで)



【西東京市戦災パネルの展示】



【1トン爆弾模型の展示】

記念式典

日時 4月12日（金）

内容 黙とう（午後1時）

挨拶 西東京市長 丸山 浩一

非核・平和をすすめる西東京市民の会 会長 鈴木 治夫

イベント 紙芝居『タイムスリップ』上演 黒木 修さん

「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」上映



【紙芝居の様子】



【「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」の上映の様子】

「タイムスリップ」

平成18年秋に、市内の戦災を題材とした絵本「タイムスリップ」が、市内在住の絵本作家高橋宏幸さん(故人)により発刊されました。

昭和20年4月12日の空襲で母親を失った子どもが、平和観音に育てられるというお話です。平和観音像(戦没者慰霊碑)は、以前は田無駅前に建てられていましたが、今は田無町の総持寺に移設されています。

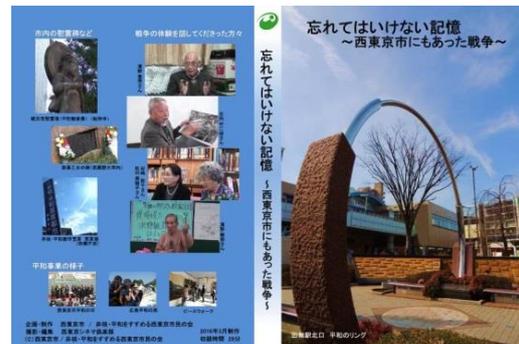


「忘れてはいけない記憶

～西東京市にもあった戦争～

終戦から70年の節目である平成27年に、戦争体験を風化させないように次世代へ伝えていく取組みとして、非核・平和をすすめる西東京市民の会と市が協働で作成した映像作品です。

市内の戦時中の様子、今も残る戦争の遺跡、市で取り組んでいる平和事業の様子等が収録されています。



イベント

4月13日（土）

【午後1時 語り 西東京市平和の日朗読・語りの会】

西東京市平和の日に語りを行うための団体で、これまでに、昭和20年4月12日の田無の戦災の朗読劇、体験者の語り継ぎを行ってきました。

毎年、工夫を凝らして、戦争の悲惨さや平和の大切さを来場者の方々に届けています。

今年は「生きる」「ぼうさまになったからす」「原爆の記」などの朗読を聞かせてくださいました。



【午後2時 歌とギター演奏 芝久保ギタークラブ】



芝久保ギタークラブは、3人で活動している演奏グループで、ギター・歌・マラカスなど、ジャンルを問わず、対話しながら楽しく演奏することを通して、皆さんと一緒に元気になれることに感謝しながら活動されています。

この日は「花は咲く」などの演奏で、平和の大切さを届けて下さいました。

【午後3時 ギター弾き語り 和/Nagomi さん】

和/Nagomiさんは、西東京市生まれのシンガーソングライターです。

平成15年の「広島平和の旅」に参加したときに、一緒に参加した方々と作った曲である「未来の空へ」や昔懐かしいフォークソングを、平和への思いを込めて来場者の方々に伝えてくださいました。



4月14日（日）

【午後1時 合唱 森のくまさん合唱団】



森のくまさん合唱団は、小中学校のPTA合唱団を通して出会った方々が、「もっと一緒に歌いたい！」という思いで結成された団体です。

この日は、人とのつながりの大切さを伝える歌として「花は咲く」「どんなときも」「花」などを歌っていただきました。

【午後2時 戦争体験の講話 浜野 敏郎 さん】

太平洋戦争終戦当時、現在の田無小学校近くに住んでいた浜野さんに、当時を知る数少ない人の一人として、終戦当時の状況などについて語っていただきました。平成30年（2018年）8月に田無小学校で発見された多くの銃刀類の発掘に関わった市職員の話も交えながら、お話しいただきました。



【午後3時 手話歌とミニ手話講座 手話うたユニット T-ripple(トリプル)&しゅわクラブりるふいん by しゅわにゃん】



西東京市を拠点とし、子どもとその保護者が共に手話や福祉を学び、あらゆる人と積極的に関わり、子どもにもできる社会貢献を考え、さまざまなことに取り組んでいるグループです。

この日は、「非核・平和都市宣言」を手話で披露していただきました。

【来場者の感想】

- どんなささいなことでもやるのが大切だと思います。
- 過ぎ去ったことは忘れてしまうけれど、亡くなった人のためにも私たちはこれからも忘れてはいけないと思います。

非核・平和パネル展

日 時	8月2日（金）～7日（水）午前10時～午後5時 （2日は午後4時から、7日は午後3時まで）
場 所	アスタビル2階センターコート
内 容	展 示 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型、ヒロシマ・ナガサ キ被爆の実相等に関するポスター、平和と学びポスター セット、原爆模擬爆弾の資料、劣化ウラン弾に関する資料 ステージ 朗読、手話教室、歌、演奏、紙芝居、フラダンス
参加者	593人

西東京市では、戦争の実体験をしている人が少なくなってきたいま、決してこの悲惨な歴史を忘れず、平和を未来へ繋げていこうと、市内、周辺地域で起きた空襲の被害や当時の暮らしの様子を紹介する「非核・平和パネル展」を毎年開催しています。

展示期間中、会場は市民の方々が作っていただいた美しい数々の折り紙で飾られ、会場にある折り紙コーナーでは、お母さんと一緒に鶴を折る子どもたちの姿も見られ、交流の場にもなりました。

一方、ステージでは、それぞれの参加団体が工夫して平和への思いを繋げました。平和の歌が奏でられると共に、戦争の痛ましさを平和の大切さを訴える紙芝居が朗読されたほか、手話教室やフラダンスも披露されるなど、平和への祈り、理解し合うことの大切さが伝えられました。

毎年、このイベントを開催するたびに、平和に対する思いを持った市民の方が立ち寄って下さり、お話をお伺いすることがあります。「あと少しで弾を受けて死ぬところでした」、「実は広島の実験者です」、「西東京市に引っ越してきて、この展示を見て戦時中のことをはじめて知りました」などの声が寄せられました。このイベントは、戦争を知らない世代にとっても学びのある交流の場でもあり、次の世代へ繋げる大切な場でもあります。

これからも、より多くの方に足を止めていただき、パネル等を見て、平和について考えていただければと思います。西東京市で行うことの意義を参加者の方と共に再度感じた6日間の展示でした。



（文：非核・平和をすすめる西東京市民の会 穂坂 晴子）

イベント

8月3日（土）

【朗読・紙芝居 非核・平和をすすめる西東京市民の会】



非核・平和をすすめる西東京市民の会で、戦争を知らない子供たちに考えてほしいテーマとして、「そしてトンキーもしんだ」を朗読しました。太平洋戦争時、動物園で殺された象のお話です。また、「ちっちゃいこえ」という、原爆の図丸木美術館にある「原爆の図」が基になった紙芝居も上演しました。

話を聞きながら、すすり泣きをしている方もいらっしゃいました。

【手話教室 みんなで手話で歌おう 五十嵐紀子さん】

五十嵐紀子さんにより、みんなで手話で歌おうと題して、手話教室が開かれました。「青い山脈」や「翼をください」など、平和に対する願いを込めながら、一緒に手話を学びながら楽しいパフォーマンスを披露していただきました。



8月4日（日）

【ギター演奏 芝久保ギタークラブ】



芝久保ギタークラブの皆さんには、今年も西東京市の平和イベントにご出演いただきました。

平和をテーマにした楽曲を中心に、皆さんで楽しいひと時を過ごしました。

【紙芝居 はとぼっぼ】

紙芝居のボランティアとして長年地域で活動されている「はとぼっぼ」の皆さんには、戦争にちなんだ紙芝居を上演していただきました。

やわらかく心のこもった語りで、来場者の方々に平和の大切さを届けて下さいました。



【歌とギター・朗読 前川博信さん、坂口照子さん】



前川博信さん、坂口照子さんのお二人で、歌とギター・朗読のコラボレーションによるステージパフォーマンスを披露していただきました。

やさしい雰囲気による演奏・朗読は、来場者の皆さんを和ませていただきました。

8月5日（月）

【フラダンス オハナモアニケアラ長谷川さん】

オハナモアニケアラ長谷川さんたちにより、平和への願いを込めたフラダンスが披露されました。

真夏の暑いなかの、ゆったりとしたフラダンスによるパフォーマンスは、来場者の皆さんに癒しを与えてくださいました。



【来場者の感想】

- 展示されたパネルには、初めて見た写真やかつて見た写真がありました。子どもや青年のときに見た感想と、歳を重ねて見た感想は違います。
- 多くの人が訪れる場所でのパネル展示の継続を望みます。

平和の詩

「平 和」

砂のように

するりと

生の間からこぼれ出てしまう

それなら

砂時計に入れて

宝の箱の中に入れて

そっとしまっておこう

小林悟さん（非核・平和をすすめる西東京市民の会）

2020年1月21日

広島平和の旅

日にち	8月5日（月）～6日（火）
内容	平和記念式典への参列、被爆体験者による講話、平和記念資料館等の見学
参加者	5人

西東京市では、核兵器の恐ろしさや戦争の愚かさ、そして平和の大切さについて学ぶ機会を市民の方々に提供するため、被爆地である広島へ公募市民の方々を派遣する事業を行っています。

今年度は、小学生の親子2組を含む5名が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話などを通して、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期にヒロシマを訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

【見学先等】

- | | |
|--------------|----------------|
| ○ 8月5日（月） | ○ 8月6日（火） |
| ・ 原爆ドーム | ・ 平和記念式典参列・献花 |
| ・ 爆心地 | ・ 平和記念公園の見学 |
| ・ 原爆の子の像 | ・ 本川小学校平和資料館見学 |
| ・ 平和記念資料館 | |
| ・ 被爆体験者による講話 | |



【広島平和記念公園】



【広島平和の旅の参加者の皆様】

【参加者の感想】

- 今日に至るまで、学校でもきちんと授業で教わったことがありませんでしたが、今回現実を目の前にして、何もできなかったのか、あまりの現実にはただただむなしさが残ります。世界中の人々と話し合える平和がほしい。
- 広島の話を知ったり、写真や本を見たりもしてきましたが、比にならない程の感情で、体全体が埋め尽くされていくようでした。来るだけでも意味があったんだな、と思いました。
- 自分の周りを平和にしていく事。そして、周りの友達に、私が見聞きした事を話す事。まずは自分の周りから、それが大切な一歩になると確信しています。
- 今回の平和の旅を終え、平和の大切さを知りました。そして今、戦争をしたら、原爆はもっと広範囲なものなどが作れると思います。決して戦争は行なってはならない事だと深く感じました。
- 「戦争、原爆、平和」という大きなテーマについて、親子で考える、生涯忘れられない機会となりました。
- 「平和記念式典」の会場周辺は、たくさんの人で前になかなか進めないような状況の中、とても静かで、整然とし、厳かな様子であったことがとても印象に残っています。
- 原爆が落とされる前まではとても立派でしたが、原爆が落とされ、ボロボロになってしまった原爆ドームを見て、原爆はとてもおそろしい物だと分かりました。
- ここには世界中から平和を願う千羽鶴が届き、次々とかざられていきます。一つ一つに思いがこめられているつるを見て、亡くなった人々の分まで平和なくらしを守りたいと思いました。

※「広島平和の旅」事業の詳細については、「令和元年度（2019年度）広島平和の旅 報告集」をご覧ください。

夏休み平和映画会

日 時 8月23日(金) 午後1時～午後4時30分
場 所 保谷こもれびホール
内 容 「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」上映
「広島平和の旅」参加者による報告会
手話歌「手話による『非核・平和都市宣言』」
映画「男たちの大和/YAMATO」上映
展 示 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型、ヒロシマ・ナガサキ被爆の実
相等に関するポスター、原爆模擬爆弾に関する資料
来場者 130人

毎年夏休みの時期に、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるため、夏休み平和映画会を開催しています。今年は、佐藤純彌監督作品「男たちの大和/YAMATO」を上映しました。その他、広島平和の旅に参加した方々の報告会を実施するなど、多くの方々に平和について考えていただく機会となりました。

「忘れてはいけない記憶

～西東京市にもあった戦争～」上映

「男たちの大和/YAMATO」の上映に先立ち、今年も、「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」を上映しました。

※「忘れてはいけない記憶～西東京市にもあった戦争～」は、
市ホームページからご覧いただけます。また、市内図書館にてDVDの貸し出しを行っています。



「広島平和の旅」参加者による報告会

「広島平和の旅」の参加者5人は、被爆地広島で知ったこと、経験したこと、感じたこと、平和のために今自分達が取り組むことなど、それぞれの想いを来場者の方に伝えました。広島への旅以来再会した5人は、再会の喜びも束の間、舞台上で緊張しながらも自分達の言葉で報告を行い、充実した旅の締めくくりとしました。



※参加者の感想などは「令和元年度(2019年度)広島平和の旅 報告集」をご覧ください。

映画「男たちの大和／YAMATO」

監督 佐藤純彌

出演 反町隆史、中村獅童 ほか

【映画紹介】

2005年4月、かつて戦艦大和の乗組員だった漁師の神尾は、大和の沈んだ地点まで一人の女性を連れて行くことにより、60年前の戦争の日々を思い出す…。

作家の辺見じゅんが生存者や遺族などに取材をして執筆した「小説 男たちの大和」を、西東京市に在住していた巨匠・佐藤純彌が映画化した作品です。



太平洋戦争末期、世界最大・最強を誇りながら、一億総特攻の先駆けとして出撃し、東シナ海に沈められた戦艦大和。当時の乗組員たちにスポットを当て、若い命を散らしていった男たちの壮絶な生き様や深き想い、遺された者たちの無念を空前絶後のスケールで描いています。

佐藤純彌監督は、西東京市に長年在住していただけてだけでなく、2000年より開催されている西東京市民映画祭自主制作映画コンペティションの審査委員長を2014年まで務めました。

この「男たちの大和／YAMATO」の他にも、佐藤監督は戦争や平和に関する作品を手掛けています。なかでも1982年公開の「未完の対局」は、日中戦争を挟みながら日本と中国の二人の天才棋士の交流と運命を描いた大作です。この作品について、佐藤監督は次のように語っています。

「この撮影の中国ロケで、中国のまちが戦争によって火災が起きるシーンを撮影するとき、エキストラの人たちが、昔の戦争のことを思い出し、皆で本当に泣き出したことがありました。」

(文：西東京シネマ倶楽部)

【来場者の感想】

- 広島平和の旅参加者の方たちの感想を直に聞く事で平和への願いの重さをととても感じました。
- これからは担う子ども達に、夏休み平和映画会を見てもらいたいです。
- 西東京の非核平和事業はとても大切な素晴らしいことで、夏休み平和映画会をもっとたくさんの人にお知らせしなくては。

ピースウォーク

日にち	11月16日(土)
内容	平和のリング(田無駅北口)→戦災者慰霊塔【平和観音】(総持寺) →日露戦争戦没者慰霊碑(田無神社)→散華乙女の碑(武蔵野大学) →中島飛行機武蔵製作所跡地(武蔵野中央公園)→250キロ爆弾(柳沢公民館)→原爆模擬爆弾投下地(しじゅうから第2公園)→郷土資料室
参加者	11人

ピースウォークは、戦争に関連した施設等を見学することで、平和の大切さを考える機会としていただくために、毎年秋頃に開催しています。

今年度は「戦跡巡り in 西東京」と題し、徒歩やマイクロバスでまち巡りを行いながら、参加者の方々に市内の戦跡にふれていただきました。

平和のリング(田無駅北口)

田無駅は、今から75年前の昭和20年4月12日に、B29からの1トン爆弾が5発炸裂し、50人以上の人が犠牲になった場所です。この歴史を忘れず、これからの平和な世界を願い、4月12日を西東京市平和の日としました。そしてここには平和観音が置かれていましたが、駅前の再開発でこの平和観音は場所が移動し、今では総持寺にあります。



ここでは、非核・平和をすすめる西東京市民の会の藤川利子さんの説明がありました。このリングは地面に接する太いところが過去、上にある細いリングが未来、その中間が現在で、未来も平和でありますようにという願いが形になっています。

次に、藤川さんより指田病院の初代田無市長指田吾一さんの説明がありました。指田さんは小樽から広島に転属になり、たまたま田無に立ち寄ったのが4月12日、田無駅前壊滅の直後でした。駅の周辺は1トン爆弾に見舞われ、無残な爆弾の穴、穴、穴でした。死体が累々とし、合わせて50体ほどが総持寺の境内に並べられました。入院20名、治療30数名で、指田さんが被害者の救護をされたという話もありました。指田さんはその後広島で被爆しながら、医者として被爆者の治療に当たりました。そして戦後「原爆の記」を著わし、その中に、4月12日の田無駅前の様子も記されています。

戦災者慰霊塔【平和観音】（総持寺）

ここには、先述の爆撃での多くの犠牲者が安置されたところです。総持寺住職の小峰立丸さんに、青梅街道ができる前の話から、総持寺の由来など貴重な話を伺いました。けやき寺と言われたこの寺の昔の賑やかな様子が目に浮かびました。

総持寺の境内に田無駅から移動した平和観音が、平和観音保存会によりきれいにされ、安置されています。会長の小林達也さんの話を聞いたところ、田無付近へは空襲8回、約5,000個の爆弾が落ちたとのこと。毎年4月12日にはここで法要が行われ、すぐそばの枝垂れ桜がその頃にはきれいに咲くそうです。



日露戦争戦没者慰霊碑（田無神社）

田無神社では、宮司の賀陽智之さんの話を聞きました。神社は七五三のお参りでかなり賑わいがあり、そこをすり抜け神社の東奥に行くと大きな日露戦争戦没者慰霊碑がありました。

この碑面は、当時の陸軍大将・大山巖が直接この神社に来て、書を書いたものを刻したものだそうです。その右側には戦いに使った大砲が持ち帰られて置かれてありました。またそこを取り巻く境界の石にはパイプの穴が開いていますが、これは第二次世界大戦の時に鉄が必要だったのでここにあった鉄パイプが供出された跡だそうです（写真）。



その左側の楠木正成の石像は形もわからないほど崩れていますが、これは出征する兵士が無事に帰れるように、戦勝祈願のために削って持って行ったお守りのためと分かり、このような所からも願いを掛けた人々の必死な思いが伝わってきました。

また、この神社には多くの展示していない絵馬が奉納されているようですが、軍服を着た自分を描いた絵馬などもあり、これは自分に神様の御加護がいつもありますようにとの願いを込めて奉納されているなど、貴重な話をたくさん聞くことができました。

散華乙女の碑（武蔵野大学）

ここでは、武蔵野大学中学校・高等学校同窓会くれない会の会長である阿部さんによる説明がありました。戦争中働き手がいなくなり、学生も各所へ挺身隊に行かねばなりません。



昭和 19 年 12 月 3 日の中島飛行機武蔵製作所の第 2 回目の空襲の時に、4 人の生徒が挺身隊員として勤めていましたが、空襲警報が発令され工場から逃げて学校の防空壕に入ろうとしたときに、B29 の 6 発の爆弾のうちの 1 発があたり 4 人は即死したといひます。今は、散華乙女の碑（写真）が置かれ、毎年 12 月 3 日には慰霊祭が行われています。

散華乙女の碑の寒椿は、碑に祀られた 4 人を覆うように包んでいました。ここに咲く白い椿の花を見ることのできない彼女たちの青春を思い、あの時の戦争という時代を再びくり返してはならないと感じざるを得ませんでした。

中島飛行機武蔵製作所跡地（武蔵野中央公園）

ここは、旧海軍の多摩製作所だったところがアメリカ軍の住宅グリーンパークとなった後、日本に返還され住民の長年の願いで広い原っぱになったという歴史があります。一行は西側の中島飛行機の工場の半分（東側の都営住宅などは元陸軍の武蔵野製作所、昭和 19 年に陸・海軍が統合され中島飛行機武蔵製作所となる）が原っぱになった跡地を歩きました。立ち止って辺りを見回すと、広い野原と多くの人が遊んだりしているのが見えます。この昔の工場の広さを実感しました。



次に、歩いて東側、陸軍の武蔵野製作所側に入り、昔変電室があった爆撃照準点の近くの 5 つのパネルの場所に行きました。パネルには中島飛行機武蔵製作所の成り立ちから終戦までの歴史が克明に写真も交え、説明されています。近くには被曝樫（かし）の木の枯れた元の木と、2 世の木が植えられ、地下に縦横に造られていた地下道のコンクリート床の一部が展示されています。

250 キロ爆弾（柳沢公民館）

公民館正面入り口から入ってすぐの右側に、大きな鉄の塊があります。これは250キロ爆弾の破片です。保谷庁舎北側を流れる新川の改修工事をする際に発見された破片です。何かの関係で激しい爆発はしなかったものと思われます。

西東京市には、この破片以外の大きな爆弾の破片は今のところありません。1

トン爆弾の模型は毎年4月12日の西東京市平和の日等で展示されますが、その4分の1の重さの爆弾でも実物は迫力があります。



原爆模擬爆弾投下地（しじゅうから第2公園）

柳沢公民館から南に歩くと、しじゅうから第2公園があります。この近くで昭和20年7月29日午前9時に、大泉方面から飛んできた1機のB29が模擬原子爆弾（模擬原爆）を落としました。

3人のじゃがいも畑にいた女性が亡くなり、負傷者10名ほどの被害がありました。目標は中島飛行機武蔵製作所でしたが、逸れてこの公園の東側の道に落ち、犠牲者が出たのです。

ここでは、「西東京に落とされた模擬原爆の記録を残す会」の代表である西田昭二さんからのお話と、非核・平和をすすめる西東京市民の会の渡部が作った写真・図を使って説明がありました。

「パンプキン」の名称のこの爆弾は、原爆を落とすための訓練用として、中に火薬を詰め、本物の原爆と同じ重さ（5トン）・同じ形で作られ、47発も日本に落とされました。模擬原爆投下中の後半には本物の原爆が2発落とされ、8月6日の広島ではウランを使った原爆（リトルボーイ）で、8月9日の長崎はプルトニウムを使った原爆で、この模擬原爆と全く同じ形のもの（ファットマン）でした。この場所に模擬原爆を落としたボックスカー機の次の任務は、長崎に本物の原爆を落とすことでした。ここの地は、本物の原爆を落とす前の訓練地になりました。

西東京市が見舞われた空襲回数は、三多摩では一番多い17回です。これは、隣の武蔵野市に中島飛行機武蔵製作所という日本最大級のエンジン工場があったため、ここを狙い、外れてしまった米軍の攻撃により、多くの犠牲者が出ました。



郷土資料室

最後に、郷土資料室へ行きました。資料室の文化財指導員である渡邊さんから、平成30年（2018年）の夏に出土した田無小学校からの銃器類の展示を説明してもらいました。

資料はきちんと整理され、詳しい内容の説明書きがあり、生々しいさびた銃器類の塊は、戦争の現実を無理やりに突き付けられたように感じました。



多くの出土品と詳しい説明書きを参加者は食い入るように見ていました。小学校の一隅に沢山集められ、火をつけて焼かれた終戦前後の混乱期とはどんなものだったのでしょ

（文：非核・平和をすすめる西東京市民の会 渡部 國夫）

【参加者の感想】

- ずっと住んでいるのに知らなかったことばかりでした。実際に戦跡を回って、その説明がきけて、とても貴重な時間でした。特に田無小から沢山の銃剣が発掘されたことは大変驚きでした。小学生の頃、遊んでいた校庭にそのようなものが埋められていたなんて思いもしませんでした。
- とてもよい企画なので、もっと多くの人に（特に若い世代に）参加してほしいと思います。
- 貴重なおはなしをたくさん聞くことが出来て良かったです。何となく知っていたことが、今日のはっきりとわかりました。郷土資料室にゆっくり見に来たいと思います。

常設展示

西東京市で作成した「西東京市戦災パネル」や戦時中に市内に投下された1トン爆弾模型等を西東京市の郷土資料室において不定期で展示しているほか、戦争遺品等を田無庁舎2階ロビーで展示しています。

①「西東京市戦災パネル」、1トン爆弾模型等の展示、②戦争遺品等の展示

場 所 ① 郷土資料室

② 西東京市役所（田無庁舎）2階 展示スペース

日 時 ① 不定期 午前10時～午後5時

② 常時 午前8時30分～午後5時

内 容 ① 西東京市戦災パネル、1トン爆弾模型等

② 戦争遺品等



【郷土資料室での展示の様子】



【西東京市役所（田無庁舎）での展示の様子】

【来場者の感想】

- パネル展示や記録（冊子）作成等、これからも地道に継続していくことを希望します。
- 日常に平和を考える機会が増えると良いですね。

令和元年度 西東京市平和事業関係予算

事業名	予算額
西東京市平和の日事業費	35,000 円
講演会講師謝金	35,000 円
広島平和記念式典市民参加事業費	505,000 円
引率職員旅費	112,000 円
広島平和記念式典市民参加事業委託料	393,000 円
映画会事業費	426,000 円
夏休み平和映画会上映委託料	270,000 円
夏休み平和映画会施設使用料	156,000 円
非核・平和学習会事業費	100,000 円
講演会講師謝金	100,000 円
その他の平和事業関係費	173,000 円
旅費	4,000 円
消耗品費	88,000 円
役務費	13,000 円
入場料	8,000 円
日本非核宣言自治体協議会分担金	60,000 円
合 計	1,239,000 円

非核・平和はみんなの願い

令和2年3月

編集 非核・平和をすすめる西東京市民の会

発行 西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課
〒188-8666 西東京市南町五丁目6番13号 田無第二庁舎
電話：042-420-2821（直通）
FAX：042-420-2893（共用）
E-mail：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp